

科学者委員会 学術体制分科会（第 25 期・第11回）

議事要旨

1. 日 時 令和 4 年12月20日（水）15:00～16:30

2. 会 場 オンライン会議（Zoom）

3. 出 席 者

吉村委員長、橋本副委員長、北川幹事、佐々木幹事、伊藤、石塚、梶田、小林（武）、中西、萩田、菱田、光石、望月、山田、吉田、川名

（欠席）伊佐、小林（博）

（事務局）佐々木参事官、奥和田学術調査員 ほか

4. 議 事

1) 前回議事要旨の確認

- ・資料 1 に基づき、第10回議事要旨（案）について特段の意見なく承認した。

2) これまでの経緯の報告

- ・委員長から、資料 2 ～ 4 に基づき、前回分科会以降、研究インテグリティに関する「論点整理【改訂版】」、「会長メッセージ」、「小林大臣への回答」が公開されたこと、G7にて議論が行われていること及びK Programの公募が開始されたことなどについて報告があった。

3) 今後の審議の進め方

- ・委員長から、「論点整理【改訂版】」の内容を充実させ、「見解」又は「報告」として意思の表出を目指すことについて説明があり、資料 6 に基づいて、今後の進め方について意見交換を行った。
- ・研究インテグリティに関するサポート人材の育成は重要な課題であり、十分な量の記載内容があるなら、別立ての項目にすることも考えられる。
- ・国大協との連携・役割分担、国際共同研究における知財に関すること、ガイドライン・基準の策定に関すること及び新たな競争的研究資金については、記載内容について慎重に検討する必要がある、との意見があった。

4) 意思の表出に向けた申出書（案）の審議

- ・委員長から、資料 5 に基づいて、意思の表出の申出書（案）について説明があり、以下の点について意見交換を行った後、これを承認した。
- ・取りまとめの過程で、内容と状況に即して「見解」か「報告」を確定することにする。
- ・申出書の内容を科学者委員会の役員で検討し、1 月中に科学的助言等対応委員会に提出する。その後、9 月までに意思の表出を行うというスケジュールが想定される。
- ・「見解」とするなら、科学的助言等対応委員会の査読が必要になるので、早めの原案作成が必要である。

5) その他

- ・なし。

資料：

資料1 第10回議事要旨（案）

資料2 科学者コミュニティからの研究インテグリティに関する論点整理【改訂版】

資料3 会長メッセージ「「研究インテグリティ」という考え方の重要性について」

資料4 先端科学技術と「研究インテグリティ」の関係について（回答）

資料5 意思の表出の申出書（案）

資料6 意思の表出發出に向けた作業計画案